

## 犬の胆道造影CT検査におけるイオトロクス酸メグルミン 投与量と胆道系のCT値および胆道系描出の経時的变化

宇野雄博<sup>1), 4)†</sup> 濱地量久<sup>1)</sup> 岡本健太郎<sup>1)</sup> 尾中千春<sup>1)</sup>

藤田桂一<sup>2)</sup> 山村穂積<sup>3), 4)</sup> 酒井健夫<sup>4)</sup>

1) 愛媛県 開業 (宇野動物病院：〒799-0112 四国中央市金生町山田井181-3)

2) 埼玉県 開業 (フジタ動物病院：〒362-0074 上尾市春日1-2-53)

3) 東京都 開業 (PetClinic アニホス：〒174-0072 板橋区南常盤台1-14-11)

4) 日本大学生物資源科学部 (〒252-0813 藤沢市亀井野1866)

(2008年12月1日受付・2009年6月17日受理)

### 要 約

犬の点滴静注胆道造影CT検査におけるイオトロクス酸メグルミンの投与量と経時的な胆道系のCT値や胆嚢容積の変化および三次元CT (3D-CT) 画像での胆道系の描出グレードを調べ、造影剤の投与量と投与後最適撮像時間について検討した。造影剤は1ml/kg (2例), 1.5ml/kg (5例), 2ml/kg (5例), および2.5ml/kg (1例)を10分間で静注し、投与前と投与直後から10分間隔でCT検査を行った。その結果1ml/kgでは胆道系の描出が不十分であった。1.5ml/kgに比較して2ml/kgでは胆道系のCT値の増加は限られていたが、3D-CT画像での胆道系の描出は2ml/kgでより明瞭であった。胆道系は造影剤投与終了から20～40分後の撮像で良好に描出された。したがって麻酔下の健康犬のDIC-CT検査は2ml/kgのイオトロクス酸メグルミンを10分間で静注した場合、投与終了から20～40分の撮像が適当と考えられた。

—キーワード：CT (Computed Tomography), 犬, 点滴静注胆道造影, イオトロクス酸メグルミン。

日獣会誌 62, 875～881 (2009)

† 連絡責任者：宇野雄博 (宇野動物病院)

〒799-0112 四国中央市金生町山田井181-3

☎0896-58-7321 FAX 0896-58-2137

E-mail : uno-takehiro@eagle.ocn.ne.jp